**日韓若手労働研究者フォーラム2018**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **1** |  | **フォーラム概要** |

○ 日時：2018.10.6(土)〜10.8(月)

○ 概要：日韓における若手労働研究者成果発表及び活動家との交流

○ 内容：1) 不安定労働と青年

2) 労働とジェンダー・移住女性

3) 労働政策と社会的パートナーシップ

4) その他の労働問題

○ 主催：社会政策学会、埼玉大学、韓国産業労働学会、韓国労使政委員会、韓国労働研究院(KLI)

○ 後援：ソウル市

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **2** |  | **フォーラム開催の背景及びテーマ** |

**○ 背景と目的**

日韓労働分野における学術交流は盛んに行われており、さまざまな成果と実践を生み出してきたものの、これまでの交流が個人のネットワーク及び既存の制度内に位置する研究者間の経験に留まっていたという指摘もなされている。

近年、労働をめぐる制度、組織、生活の変化が急速に進められている中、両国の学界では、こうした変化に研究の視野を拡げ、新たな問題意識に基づいた議論を展開する若手研究者が増えてきている。だが、経済的な理由などの制約により、両国の若手研究者の新たな研究成果や問題意識は互いに共有されてこなかった。

こうした現状を踏まえ、「日韓若手労働研究者フォーラム2018」は、両国の若手研究者が各々の研究成果を発表し、議論し合うことで、多様な問題意識を共有し、新たな知見を得る場を提供するとともに、両国の活動家との交流を通じて今後の新たな研究課題の発見につなげる機会を与えることを目的とする。そして、このフォーラムは1回きりのイベントにとどまらず、今後も持続的に両国の若手研究者と活動家が情報を交換し、議論することができるコミュニティを構築していくことを目指していく。

**○ テーマ**

ⅰ) 不安定労働と青年

ⅱ) 労働とジェンダー・移住女性

ⅲ) 労働政策と社会的パートナーシップ

iv) その他の労働問題

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **3** |  | **詳細日程（暫定）** |

○ 日時：2018.10.6(土)〜10.8(月) （2泊3日）

○ 場所：埼玉大学

○ 参加予定：日韓若手研究者及び活動家約50人(両国の報告者各10人、計20人を含む)

**- 日程 -**

* **1日目 (10月6日)**
* **セッション1 (午後2時〜3時50分)：活動家報告**
* **セッション2 (午後4時〜6時)：不安定労働と青年**
* **歓迎会 (Reception) (午後6時〜8時)**
* **2日目 (10月7日)**
* **セッション3 (午前10時〜12時)：労働とジェンダー・移住女性**
* **昼休み (午後12時〜午前1時)**
* **セッション4 (午後1時〜2時50分)：労働政策と社会的パートナーシップ**
* **セッション5 (午後3時〜5時)：その他の労働問題**
* **懇親会 (午後6時〜8時)**
* **3日目 (10月8日)**
  + **エクステンション（暫定）**

＊ 各セッションの進め方：各セッションは、原則、日本と韓国の若手研究者(各2人)がそれぞれ発表して後、コメンテーターがコメントをし、最後に全員で議論する形で進める。

○ 各セッションのテーマとその趣旨

**(1) 不安定労働と青年**

近年、配達代行サービスや家事代行サービスなど、デジタルプラットフォームをベースにしてサービスを提供する働き方が広がっており、こうした新たな働き方をめぐる議論も盛んに行われている。最近の議論では、プラットフォーム労働を、技術に媒介された形で資本に支配される「現代版奴隷労働」としてとらえる向きがある一方で、労働時間や手段を自由に選択でき、仕事と生活のバランスを追求する自律的な自営業としてとらえる見解もあり、互いに対立している。

プラットフォーム労働をめぐる議論は、ただし新しいものではなく、過去30年間急激に増加してきた非正規雇用をめぐる議論の延長線上のものとして把握することもできる。以上のような文脈をふまえ、今回のフォーラムでは、特に青年労働や有期雇用、パートタイム、派遣などさまざまな非正規労働の実態を検討し、最近浮上している新たな組織化方法についても議論していく。

**(2) 労働とジェンダー・移住女性**

日韓両国が共通して抱えている問題の一つは、社会と職場で起きる男女間の不平等問題である。さまざまな努力にも関わらず、両国におけるジェンダー不平等指数は世界最下位レベルを記録している。今回のフォーラムでは、両国の女性労働の現実を明らかにするとともに、それが非正規労働の問題とどのようにつながっているのかを議論する。そして、近年、両国において急速に広がっている「ジェンダー化された移住」という現象についても、移住労働者の生活と移住労働者の属する労働市場の特性、それから移住労働者を取り巻くセーフティネットの問題を含めて、広く議論する。

**(3) 労働政策と社会的パートナーシップ**

高度経済成長期には、中央政府が経済成長を牽引するなかで、完全雇用を政策理念として目指し、一律的な労働政策が展開されていた。しかし、近年では「雇用なき成長」が続き、中央政府の主導による従来型労働政策が限界を見せており、その対案として地域や社会的パートナーシップの役割について関心が高まっている。

地方政府は地元産業や地域住民の生活に密着し雇用を創出し、職業訓練や就労支援を行うことができるという点で、非常に大きな可能性を持つ主体である。また、社会的パートナーシップは、利害関係者と住民の参加によって政策を決定するとともに、関連サービスをより効率的に提供することができるという点で重要な概念である。

しかし、現在、ほとんどの地域がその可能性を実現できる能力を欠けており、地域政府を中心とする社会的パートナーシップを形成するということはあくまでも可能性を語ることに過ぎない。行政はもちろん、地域住民団体の政策的能力が低いし、地方自治体や地域住民団体が地域の実力者など特定集団に左右されることも少なくない。なお、社会的パートナーシップもさまざまな問題を抱えており、何より、社会的弱者の声が構造的に無視されている。以上のような可能性と限界を踏まえて、今回のフォーラムでは、日韓両国の事例に基づき今後の労働政策の方向性と社会的ガバナンスの実現可能性を模索する。

**(4) その他の労働問題**

以上のテーマ以外にも、最近日韓両国において生じている労働問題について、幅広く討議できるような場を作りたい。例えば、普遍的権利としての「健康権」を中心に、活発に議論が行われている安全衛生問題などを取り上げることができる。ほかにも、多様なテーマをめぐって議論が交わされ、交流が深まることを期待する。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **4** |  | **今後の計画** |

○ 2019年の韓国産業労働学会春季学術大会において特別セッションを設け、今度のフォーラムにて優れた報告をした日本の若手研究者を選抜・派遣し(その際の飛行機代とホテル代は主催側が負担)、韓国での報告と交流ができるようにするなど、可能な限りの努力を続ける。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **5** |  | **フォーラム参加/フォーラム報告の手続き** |

○ フォーラムへの一般参加を希望する方は、次までご連絡ください。会場に余裕のある限り、自由にご参加できます。

＊問い合わせ先：事務局　金美珍　[kim@seikatsuken.or.jp](mailto:kim@seikatsuken.or.jp)

○　フォーラムでの報告を希望する方は、別紙の「**日韓若手労働研究者フォーラム2018応募用紙**」に必要な事項をご記入のうえ、添付ファイルにて実行委員会宛に送ってください。

* 締め切り： **2018年9月9日（日）23時59分**
* 宛先： 実行委員会　[jwwooshakaiseisaku@gmail.com](mailto:jwwooshakaiseisaku@gmail.com)

○ 応募用紙に基づき、報告可能人数の**8人**を上限として、選考委員会において選考を行い、2018年9月20日（木）までに結果を通知します。

○ 応募者多数の場合は、現在大学院生として在籍している方、あるいは最終学位を取得してから2年未満でフルタイムの教育研究職に就いていない方を優先して選考します。

○　報告者として選考された方には、会場までの交通費と2泊の宿泊費を主催側が負担します。

○　何か不明なことなどありましたら、次までご一報ください。

＊問い合わせ先：事務局　金美珍　[kim@seikatsuken.or.jp](mailto:kim@seikatsuken.or.jp)